

山口大学図書館蔵青木正児旧蔵唱片目録

根ヶ山 徹

山口大学図書館には青木正児（1887 - 1964）旧蔵の中国唱片三十二枚を収蔵する。これらは人文学部教授（当時）岩城秀夫（1923 - 2011）の寄贈により山口大学に帰したものである。唱片には「目録」と「附記」が添えられる。

「目録」には、次のようにある。

一 青木正児博士旧蔵崑曲京劇レコード 三十二枚

右故青木正児博士の偉業の一端を伝えるものとして山口大学に寄贈いたします

昭和六十年八月七日 山口大学人文学部 岩城秀夫

山口大学附属図書館長殿

「附記」には、唱片蒐集の由来、青木正児の履歴が詳述される。

附記 これらのレコードは青木博士が昭和十一年、同十四・十五年に中国に留学された際に蒐集されたもので、すべて当時の名優によって吹き込まれた佳品であり、貴重な資料であります。青木正児博士は明治二十年下関市に生まれ、京都帝国大学文科大学支那文学科を卒業、東北帝国大学教授、京都帝国大学教授を勤め、昭和二十二年定年退官、その後昭和二十五年一月特に請われて開学後なお日の浅い山口大学文理学部文学科（現人文学部の前身）の教授として着任され、八年近く在任、その間には学部長も勤められました。博士は人も知る中国文学の泰斗であり、日本学士院会員でもありました。学位論文となった支那近世戯曲史は不朽の名著として日本はもとより中国の学者もひとしく称賛するところでもあります。博士の業績は中国文学全般にわたり、全集十巻は後進を導く津梁として学界に貢献するところ大であります。博士遺愛の右のレコードは、昭和三十九年十二月二日博士が七十八歳を以て道山に帰されたのちも暫く京都下鴨の御邸宅に蔵されていましたが、艶子未亡人の御厚意により博士の受業生であり、博士と同じく中国の戯曲の研究に従事する私に譲り渡されました。私は久しくこれを座右に押し博士の遺徳を偲んで参りましたが、博士にゆかりの深い山口大学に記念となるべきものが何一つ残されていないことに思い到り、この度右のレコードを山口大学に寄贈することにいたしました。ひろく同学の士が往年の博士の面影をしのぶよすがとされんことを期待する次第であります。山口大学において永く珍藏されんことを希望いたします。 以上

帙の題簽は博士の筆

山口大学図書館が収蔵する唱片は二帙に分かたれる。

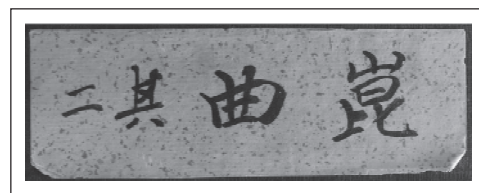
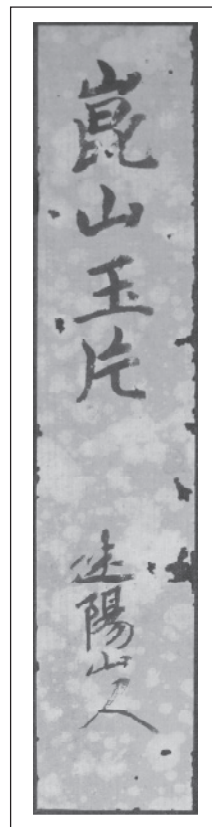
その一は題簽に「崑山玉片 迷陽山人」、側面の副題簽に「崑曲其二」と墨書される。

請求番号	会社	唱片編号	Matrix	演員	演目	劇種	録音年代	備考
772.22/A01/01	Victor	42997-A	—	周鳳文	楼会	崑曲	1920年代	朱復 ¹ p.959
		42997-B	—	周鳳文	説親回話	崑曲		
772.22/A01/02	高亭	A26010a	Tab23	俞振飛	西楼記 頭段 拆書	崑曲	1925	申報 ²
		A26010b	Tab24	俞振飛	西楼記 二段 拆書	崑曲		
772.22/A01/03	高亭	A26011	Tab25	俞振飛	牡丹亭 驚夢	崑曲	1925	申報
		A26012	Tab26	俞振飛	長生殿 驚變	崑曲		
772.22/A01/04	高亭	A26014	Tab29	項遠村	荊釵記 見娘	崑曲	1925	申報
		A26015	Tab30	項遠村	白羅衫 看狀	崑曲		
772.22/A01/05	高亭	A26018	Tab33	項馨吾	牡丹亭 驚夢	崑曲	1925	申報
		A26019	Tab34	項馨吾	長生殿 絮閣	崑曲		
772.22/A01/06	高亭	A26020a	Tab35	袁蘿盒	牡丹亭 頭段 游園	崑曲	1925	申報
		A26020b	Tab36	袁蘿盒	牡丹亭 二段 游園	崑曲		
772.22/A01/07	高亭	A26020c	Tab37	袁蘿盒	牡丹亭 三段 游園	崑曲	1925	申報
		A26020d	Tab38	袁蘿盒	牡丹亭 四段 游園	崑曲		
772.22/A01/08	高亭	A26021a	Tab40	楊習賢	琵琶記 頭段 南浦	崑曲	1925	申報
		A26021b	Tab41	楊習賢	琵琶記 二段 廊会	崑曲		
772.22/A01/09	高亭	A26022a	Tab41	王慕詰	邯鄲夢 頭段 三醉	崑曲	1925	申報
		A26022b	Tab42	王慕詰	邯鄲夢 二段 三醉	崑曲		
772.22/A01/10	高亭	A26023a	Tab43	張某良	長生殿 頭段 彈詞	崑曲	1925	申報
		A26023b	Tab44	張某良	長生殿 二段 彈詞	崑曲		
772.22/A01/11	高亭	A26024	Tab45	徐摹烟	還金鑊 哭魁	崑曲	1925	申報
		A26025	Tab46	俞振飛・項馨吾	玉簪記 琴挑	崑曲		
772.22/A01/12	高亭	A26026a	Tab47 ²	高硯耘	单刀会 刀会	崑曲	1925	申報
		A26026b	Tab48 ²	高硯耘	单刀会 訓子	崑曲		
772.22/A01/13	百代	34655a	1825	徐炎之	琵琶記 書館	崑曲	1934	張洪濤 ³
		34655b	1826	甘貢三	琵琶記 掃松	崑曲		
772.22/A01/14	国楽	K133-A	—	韓世昌	邯鄲夢 掃花	崑曲北曲	1938	張洪濤 ⁴
		K133-B	—	韓世昌	金雀記 庵会	崑曲北曲		
772.22/A01/15	複製	VT1449	—	高硯耘	单刀会 刀会	崑曲	?	
772.22/A01/16		VT1450	—	高硯耘	单刀会 訓子	崑曲		

各唱片については以下のとおりである。

- 1 朱復輯録「昆曲唱片目録」（吳新雷主編『中国昆劇大辞典』、南京大学出版社、2002年、所収）。
- 2 『申報』中華民國15年12月11日「心聲唱機・公司經理高亭唱片」欄。
- 3 張洪濤「崑曲老唱片史話（1903-1948）（下）」『離山堂崑曲唱片目録』断代考（『中国京劇』2016年第11期）43頁。
- 4 前掲注3「崑曲老唱片史話（1903-1948）（下）」43頁。

Victorは、1901年に設立されたThe Victor Talking Machine Companyに起源する。中国では謀得利洋行が録音販売を手がけ、「役挫」「勝利」「物克多」「Victor」等のレーベルがある。しかし標榜する俳優とは別人の演唱を録音した贗作が多く、経営不振に陥っていた。⁵ために唱片事業の経営に三十余年携わってきた徐乾麟は、息子の徐小麟(?)に再建を託し、後掲するように1924年、多くの著名な俳優の録音をおこなった。⁶青木正児旧蔵の周鳳文の唱片については録音年代不詳、レーベルの形状は1914年から1926に用いられた"Bat Wing"である。



高亭唱片公司(Odeon)は、1903年にドイツで設立されたInternational Talking Machine Companyに起源する。中国では徳商天利洋行が「利賊」というレーベルで唱片的録音販売をおこなってきたが、1923年の広告に見える取扱商品に唱片は含まれず、この頃には唱片事業からは撤退したものと推測される。⁷『申報』中華民國十四年(1925)9月17日本埠増刊第一版「芸術消息」欄に掲載

される玄蠡「高亭留声唱機公司蓄音」なる一文によれば、1925年、徐小麟等により再建され、当代一流の名優を招致して、唱片的録音をおこなったものごとくである。

5 羅亮生著・李名正整理『戲曲唱片史話』(『上海戲曲史料薈萃』第1集、上海芸術研究所、1986年、所収) 99頁。
 6 『百代月刊』創刊号(中華民國26年7月15日)には、「徐君小麟、余姚人。文采風流、名動江左。致力於唱片事業者、垂十四載。出奇制勝、成績斐然。嘗以其余緒、設立大声無綫電唱機行於上海之福州路、經售唱機唱片及各種無綫電機。銷路之廣、無與比倫。君絕不自滿、復時時籌謀推進之方、誠中国唱片業中之佼佼者。余与君締交有年、志同道合、相知益深。今有此百代一書之編輯、因刊其近影、以告当世諸君子。(傳祥巽)」なる小伝が掲載される。また、蘇少卿『唱片劇詞匯編』(先声出版社、1929年)の梅花館主人鄭子褒序には「同里徐乾麟世丈、經營唱片事業、凡三十余年。其文郎小麟世兄、年少有為、能繼父業、剝弁高亭公司」とあり、徐小麟が父親の徐乾麟から事業を受け継いだと記される。
 7 『申報』中華民國12年(1923)10月10日国慶紀念増刊の徳商天利洋行広告には、「本行創設海上、專營進出口貨。自備外洋輪船、特運德国本廠機器・鐵路材料・火車電料・大小五金・各色紙料・疋頭雜貨、經理花旗特等鹿頭牌皮帶。年久以来、信用卓著、曾在英・美・日本各国及青島・天津・漢口・香港各大商埠次第増設分行、銷運範圍幾徧世界。本行為酬答顧客起見、營業益自奮勵。採弁比衆精詳、特設船頭房。各国口岸均有航線、故運輸比衆迅捷、貨品比衆斟酌、價目比衆公平。凡此四大優點、實本行可以自信者。倘有委託、深希貴臨為幸。本行經理上海瑞生機器、陳列所及德国昂不爾合地方愛柯買司廠(Alcumess)之五金原料。」とあり、同社は輸出入業が專業であること、取扱商品はドイツで製造した機器、鉄道資材、汽車の電気機材、金属製品、紙料、雜貨、米国製ベルトであることが明記される。また、同日の同社の營業内容を示した広告には、「五金部 大小五金、電器材料、銀箱洋針、留声機器」とあり、「唱片」は含まれない。

徐小麟君は、風雅を提倡し、芸術を揄揚して、時流の推許するところである。近ごろさらに同姓不宗の徐凌雲及び沈兆渠を招いて、上海の名曲家数名の紹介を依頼し、新たに高亭留声唱機公司を創業して唱片数枚を録音した。俞振飛・翁瑞午・袁蘿龔・張某良・高硯耘・楊習賢・王慕詒・項遠邨・項馨吾の諸君が、いずれも招致され集まった。徐凌雲は演劇界の祭酒たる存在であり、平素は表演しないけれども、それでは小麟の誠意を妨げることになるので、聴衆を魅了する一曲を披露し、すでに昨日 高亭公司において録音したという。⁸

徐凌雲（1886 - 1966）は崑曲俳優、字文傑、号摹煙、浙江海寧の人。沈兆渠については詳らかにし得ない。

『申報』中華民國十五年（1926）12月11日には、「心聲唱機公司經理高亭唱片」と題して、高亭レールで発売された唱片が列記され、脚色、演員、演目、唱片編號が記載されている。そのうち、崑曲に関しては以下の十三枚である。⁹

演員	演目	唱片編號	崑曲其二 存否
俞振飛君	西樓記 西樓記	26010A-B	○
	牡丹亭 驚夢 長生殿 驚變	26011-12	○
翁瑞午君	義妖記 斷橋 義妖記 斷橋	26013 A-B	×

8 原文は「徐君小麟、提倡風雅、揄揚芸術、時流推許。近復倩（当作「請」）其不宗凌雲、及沈君兆渠、紹介海上名曲家数輩、為新創弁之高亭留聲唱機公司蓄音數片。振飛・瑞午・蘿龔・某良・硯耘・習賢・慕詒・遠邨・馨吾諸君、皆在羅致之列。凌雲為曲界祭酒、平日不恒引吭、是役碍於小麟誠意、不得不為發聲振聵之一歌矣、已於昨日在高亭公司收音云。」

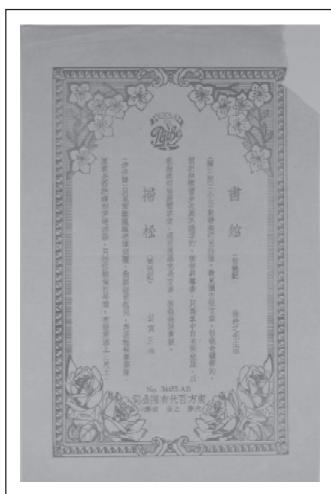
9 「26016」と「26017」で両面、「26024」と「26025」で両面である。

項遠邨君	荊釵記 白羅衫	26014-15	○
項馨吾君 徐摹煙君	鉄冠図 刺虎	26016	×
項馨吾君	紫釵記 陽関	26017	×
	牡丹亭 驚夢 長生殿 絮閣	26018-19	○
袁蘿龔君	牡丹亭 游园 牡丹亭 游园	26020A-B	○
	牡丹亭 游园 牡丹亭 游园	26020C-D	○
楊習賢君	琵琶記 南浦 琵琶記 廊会	26021A-B	○
王慕詰君	邯鄲夢 三酔 邯鄲夢 三酔	26022A-B	○
張某良君	長生殿 弾詞 三転 長生殿 弾詞 三転	26023A-B	○
徐摹煙君	還金鐺 哭魁	26024	○
俞振飛君 項馨吾君	玉簪記 琴挑	26025	○
高硯耘君	单刀会 刀会 单刀会 訓子	26026A-B	○

尚、前掲の玄蟲「高亭留声唱機公司蓄音」に見える徐凌雲の演唱は、唱片番号26016の『鉄冠図』『刺虎』及び、唱片番号26024の『還金鐺』『哭魁』と思われる。

百代公司 (Pathé) の設立には、1906年¹⁰、1907年¹¹、1908年¹²の諸説がある。1915年前後に上海市徐家匯路1434号に工場を建設、1928年にColumbiaに吸収合併された。「崑曲其二」中の徐炎之『琵琶記』『書館』・甘貢三『琵琶記』『掃松』は、1934年夏、南京で中央広播電台との合作で録音され、発売されたものごとくである。¹³また、『広播周報』第135期(1937年)81頁「戲詞」

欄には「准于五月十三日十九時播送」として、「書館(琵琶記)徐炎之先生唱」、「掃松(琵琶記)甘貢三唱」の唱詞が、それぞれ掲載される。青木旧蔵唱片には唱詞紙片が附録される。



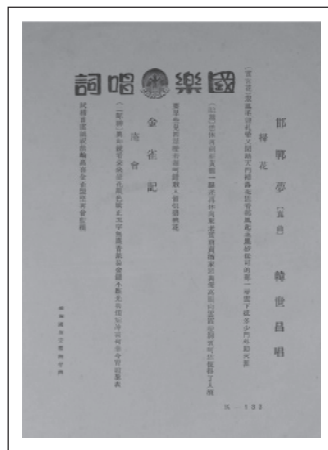
10 吳小如『吳小如戲曲文録』(北京大学出版社、1995年)「羅亮生先生遺作『戲曲唱片史話』訂補」802頁(後に、吳小如『吳小如戲曲隨筆統集』[天津古籍出版社、2005年]162頁にも収む)所引吳曉鈴説。

11 徐羽中『二十世紀上半葉中国唱片初探』(海風出版社、2008年)9頁。

12 田飛「從『百代小紅樓』考察民国時期上海的唱片業發展和影響」(上海音樂學院、2007年碩士論文)7頁、葛濤「“百代”浮沈—近代上海百代唱片公司盛衰紀」(『史林』2008年第5期)26頁。

13 前掲注3「崑曲老唱片史話(1903-1948)(下)」43頁。

国楽唱片公司 (CORONA) は、1937年、日本人の投資により北京で設立され、工場は横浜に置かれた。主として京劇と北方の戯曲を録音。ただし、1940年に営業停止、設備、マスターデータは太平唱片会社に譲渡された。¹⁴「崑曲其二」中の韓世昌『邯鄲夢』『掃花』『金雀記』『庵会』は、1938年7月、北京西長安街の中央廣播電台のスタジオで録音され、同年12月に第二期の唱片として発売されたものごとくである。¹⁵青木旧蔵唱片には唱詞紙片が附録される。



複製はそれぞれ片面のみの録音であり、レーベルは田中謙二 (1912 - 2002) の手筆である。
1枚目には、

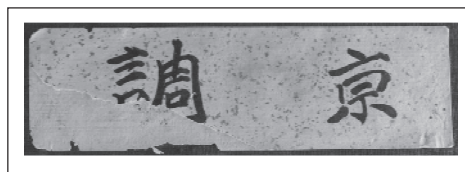
支那語 / Odeon (高亭) レプリント / A26026-a / 崑曲 (一) 崑山 / 著名崑曲大家 / 高硯耘君 / 单刀会 / 刀会 / VT1449

2枚目には、

支那語 / Odeon (高亭) レプリント / A26026-b / 崑曲 (二) 崑山 / 著名崑曲大家 / 高硯耘君 / 单刀会 / 訓子 / VT1450

とある。

その二は題簽には無記入、側面の副題簽に「京調」と墨書される。



請求番号	会社	唱片編号	Matrix	演員	演目	劇種	録音年代	備考
772.22/A01/17	Victor	42002-A	—	孫菊仙	奇冤報 第一	反二簧前	1906	北京志 ¹⁶ p.327
		42002-B	—	孫菊仙	奇冤報 第二	反二簧後		
772.22/A01/18	Victor	42483-A	—	賽月楼	四進士	西皮調	?	?
		42483-B	—	徳勝奎	法門寺	西皮調		

14 前掲注11『二十世紀上半葉中国唱片初探』17頁。

15 前掲注3「崑曲老唱片史話 (1903-1948) (下)」43頁。

16 「1949年前部分戯曲唱片資料一覽表」(北京市地方志編纂委員会『北京志 文化芸術卷 戯劇志 曲芸志 電影志』、北京出版社、2000年、所収)。

772.22/A01/19	Victor	43350-A1	—	臥雲居士	徐母罵曹 第一	西皮	1924	新聞報 ¹⁷
		43350-B2	—	臥雲居士	徐母罵曹 第二	西皮		
772.22/A01/20	Victor	43353-A	—	陳彥衡	柳青孃	胡琴	1924	新聞報
		43353-B	—	陳彥衡	柳搖 金	胡琴		
772.22/A01/21	Victor	43356-A	—	梅蘭芳	武昭関	二簧	1924	新聞報
		43356-B	—	梅蘭芳	宝蓮灯	二簧		
772.22/A01/22	Victor	43359-A	—	言菊朋・陳彥衡	魚藏劍	西皮	1924	新聞報
		43359-B	—	言菊朋・陳彥衡	状元譜	西皮		
772.22/A01/23	Victor	43361-A	—	言菊朋・陳彥衡	法場換子	正板二黄	1924	新聞報
		43361-B	—	言菊朋・陳彥衡	奇冤報	二簧		
772.22/A01/24	Victor	43363-A1	—	程艷秋	玉堂春 頭段	西皮	1924	新聞報
		43363-B2	—	程艷秋	玉堂春 二段	二六		
772.22/A01/25	Victor	43365-A	—	高慶奎	打鼓罵曹	西皮	1924	新聞報
		43365-B	—	高慶奎	四郎探母 見娘	西皮		
772.22/A01/26	Victor	43369-A	—	王鳳卿	浣紗計	西皮	1924	新聞報
		43369-B	—	王鳳卿	取成都	西皮		
772.22/A01/27	Victor	43371-A	—	譚小培	天雷報	二簧	1924	新聞報
		43371-B	—	譚小培	南天門	西皮		
772.22/A01/28	Victor	43372-A	—	小香紅・小月紅	掃花三醉	二六流水	1924	新聞報
		43372-B	—	小香紅	御碑亭	流水搖板		
772.22/A01/29	Victor	43375-A	—	金少梅	六月雪	二簧	1924	新聞報
		43375-B	—	金少梅	黛玉葬花	西皮		
772.22/A01/30	Victor	43380-A	—	花蘭芳	拾万金	梆子	?	?
		43380-B	—	花蘭芳	三疑計	梆子		
772.22/A01/31	Victor	43382-A	—	高第	罵殿	二簧慢板	1924	新聞報
		43382-B	—	高彩雲	汾河湾	西皮調		
772.22/A01/32	高亭	A26046	Tab81	全班合奏	將軍令	京班	1925	申報
		A26047	Tab82	全班合奏	鬧頭場	京班		

Victorの唱片について、『新聞報』 中華民國14年1月16日「遊芸消息」欄に次のような記事が掲載されている。

謀得利洋行新収の録音唱片、第一弾は馬連良・黄玉麟・高百歳・小月紅・小香紅・金小楼等の演唱に係るデモ版はすでに上海に到着した。第二弾の梅蘭芳・言菊朋・程艷秋・王鳳卿・譚小培・金少梅・譚富英・高慶奎・郭仲衡・蔣君稼・祝蔭亭・臥雲居士等の演唱に係るデモ版は、明日到着するという。(梅蘭芳の演唱はすべて六面、一は「宝蓮灯」、一は「西施」、一は「廉錦楓」、一は「洛神」、一は「玉堂春」、一は「武昭関」。) (梅花館主)¹⁸

17 『新聞報』 中華民國14年1月16日「遊芸消息」欄。

18 原文は「謀得利洋行新収之留声唱盤、第一批馬連良・黄玉麟・高百歳・小月紅・小香紅・金小楼等所唱之樣片業已到滬。第二批梅蘭芳・言菊朋・程艷秋・王鳳卿・譚小培・金少梅・譚富英・高慶奎・郭仲衡・蔣君稼・祝蔭亭・臥雲居士等所唱之片、約明正可到云。(梅蘭芳共唱六片、一宝蓮灯、一西施、一廉錦楓、一洛神、一玉堂春、一武昭関) (梅花館主)」

また、『新聞報』中華民國14年5月29日「唱片消息」欄には、次のような記事が掲載されている。

心声公司発売の新唱片 謀得利と俗称されるVictor鋼針唱片。昨年より徐小麟君、鄭子褒君等が録音技師と北京に赴き名伶の十八番を収録し、その数は数百を下らない。ために蓄音機ファンは、しばらく狂喜しないものはない情況におちいった。当面20枚を、南京路望平街口の心声公司から先行発売すると聞く。言菊朋・陳彥衡・梅蘭芳・程艷秋・蔣君稼・馬連良・譚小培・譚富英・王鳳卿・郭仲衡・高慶奎・楊宝忠・馬叫天・祝蔭亭・臥雲居士・黄玉麟・高百歳・高第・小月紅・小香紅・鍾姑娘・紹興戲等のごときは、すべてそろっている。なかでも陳彥衡の胡琴がもっとも貴重であるという。(心東)¹⁹



鄭子褒 (?-?) は演劇評論家、号梅花館主、浙江余姚の人。『半月戲劇』『戲劇画報』等の主筆を務め、長城唱片会社の經理も担当した。

レーベルは崑曲に同じく"Bat Wing"である。

また、高亭唱片会社の唱片について、前掲の『申報』中華民國十五年12月11日「心声唱機公司經理高亭唱片」末尾の「音楽」の項目に、以下の記載がある。

演員	演目	唱片編號
全班合奏	鬧頭場 將軍令	26046-47



最後に青木正児がこれらの唱片を購求した時期について贅言しておきたい。上掲のごとく、国楽唱片公司による韓世昌『邯鄲夢』『掃花』・『金雀記』『庵会』の録音、発売が1938年であると覚しいことから、昭和十四、十五年の訪中時であることは言を俟たないであろう。

実際の上演、俳優の演技について、青木正児の言及は決して多くはない。例えば、「崑曲劇と韓世昌—其の渡来に方つて之を世に紹介す—」には、韓世昌と梅蘭芳の演技のいずれが好感を以て迎えらるかにについての劇評が記されている。²⁰

19 原文は「心声公司發售新唱片 俗称謀得利之Victor鋼針唱片。自去歲由徐君小麟・鄭君子褒等、与收音技師赴京灌収各名伶之擅長口戲、不下数百種後。一时有唱機迷者、靡不為之狂喜。□聞在下日先出二十張、由南京路望平街口心声公司發售。如言菊朋・陳彥衡・梅蘭芳・程艷秋・蔣君稼・馬連良・譚小培・譚富英・王鳳卿・郭仲衡・高慶奎・楊宝忠・馬叫天・祝蔭亭・臥雲居士・黄玉麟・高百歳・高第・小月紅・小香紅・鍾姑娘・紹興戲等、应有尽有。中尤以陳彥衡之胡琴最口名貴云。(心東)」

20 『江南春』『拘肆野語』、弘文堂書房、1941年(後に『青木正児全集』第7卷『江南春』、春秋社、1970年、に収む)。

私は韓世昌の芸について多くを知らない。只一度北京の開明戲院で或る救済金募集のために演芸会が開かれた際、その「春香鬧学」一齣を見たばかりである。私はもとより彼を語る資格はない。しかし私は彼を見る二箇月程前に、同じ開明戲院で梅蘭芳の「春香鬧学」を見てその印象がまだ新たな時であつたからして、ひそかにその二名伶の芸を比較しながら見る事が出来た。そして只一度で韓世昌のじつくりとした芸風に傾倒してしまつた。……梅蘭芳の春香は余りに艶に過ぎて十五六の小女郎の無邪氣さを欠いている。いたづらも少し度に過ぎて雅味が足らぬ。春香がいたづらをして麗娘に折檻されるとき、跪きながら手巾で鶴か何かを折つて飛ばすなどの型は如何にも巧緻繊細で感服したが、それにしてもどうも大家の腰元といふ趣きで無くして、同じ小間使でも青樓の小間使といったやうな感じがした。これに比すると韓世昌の春香は可憐で無邪気で、其の芸風は真挚で、大向うの喝采を博しようとする山氣は少しも無く、淡々として水の如き感じである。

いずれにせよ、日本においては容易に觀劇の機会に恵まれず、崑曲、京調に触れる唯一の手段は唱片であつた。ために、購求方針はシリーズのコンプリート。これは、唱片編号が連続していることから明らかである。

(疫情下、資料収集にあたって杭州師範大学講師張洋氏の助力を得た。記して謝意を表す。)